ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 伊東 佳美

作成日 2024 年 2 月 26 日

【責任】

薬学部薬学科に所属し、臨床系薬学を中心とした教育・研究を行っている。主たる教育活動は臨床系薬学の講義（セルフメディケーション学、薬局管理学、地域医療薬学）、実習（臨床薬学実習Ⅲ・セルフメディケーション実習、臨床薬学実習Ⅳ・在宅業務実習、臨床薬学実習Ⅴ・無菌調製）、演習（アドバンスト演習・実務実習を振り返る／在宅医療・医療連携（アドバンスト）／チーム医療演習）、自由科目セミナー（「実践 地域医療」）を担当している。その他、担任学生の学習指導、卒業研究指導、リメディアル教育委員会委員、薬剤師生涯学習企画委員会委員・運営委員会委員、模擬患者の会運営委員会委員、実務実習委員会委員を務めている。

【理念】

現在の我が国では地域包括ケアシステムにおいて、薬剤師・薬局は地域住民が望む健康の維持・増進に積極的に関わることや、さらに多職種連携の構築に参画する役割が求められている。その薬剤師の養成に関しては、医療技術の高度化、医薬分業の進展等に伴い、現在の薬学教育モデル・コアカリキュラムの中で薬剤師として求められる基本的な資質として「地域の保健・医療における実践的能力」や「チーム医療への参画」が明記され、高い資質を持つ薬剤師養成が必要となっている。そのため学生には、専門性や協調性を身につけ、多職種と連携しながら地域医療などに貢献できる実践的能力を持った薬剤師となって欲しいと考える。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「基礎知識を確実に身につける」「最新の社会状況を学ぶ」「授業内容を臨床現場での実際と結びつけて、より理解を深める」「他の学生と考えを共有することで学びを深める」「教員が自らルールを守ることを学生に見せる」を方針とする。

「基礎知識を確実に身につける」

授業の最後や途中に問題を出題し、答えてもらっている。授業時間内で、特にポイントとなることなどに焦点をあて、知識をまとめるために問題の提示をしている。それにより、知識の整理ができると考える。また、提示のタイミングについては、授業科目やその時間の内容によって、最後にしたり、小休憩の目的で途中に入れるなどの工夫をしている。

「最新の社会状況を学ぶ」　授業では教科書を使わず、自作の資料などを使用している。臨床系薬学の科目は特に、新しく追加されることまたは改定されていくことが多い分野であることから、最新の内容を含めた講義資料を作成して学生に提供し、教科書は参考資料とすることが

多い。そうすることで、学生にも常に最新の情報を収集し学んでいく必要性を感じてもらえると考える。

「授業内容を臨床現場での実際と結びつけてより理解を深める」

　授業中に臨床現場で撮影した動画を見せている。また、臨床現場で活躍している薬剤師に特別講義をしていただいている。最終的には臨床の現場で活躍できる人材の育成が目標となるが、そのためには基礎知識を身につけた上でそれがどのように臨床の現場で生かされるのかを実感してもらうことがさらに学びを深める行動につながると考える。そのため、できるだけ臨場感のある授業を目指している。

「他の学生と考えを共有することで学びを深める」

　発言の機会を作る。問題の提示や質問を投げかける時に、なぜそう考えるかなどの理由を確認し発言してもらうことで、学生自身の理解も深まり、それを聞いている周りの学生にとっても気づきがあると考える。

「教員が自らルールを守ることを学生に見せる」

　授業開始・終了時間を厳守している。学生が薬剤師となった時には医療従事者として他職種などと業務を行っていく際にも、ルールを守ることは重要と考える。また、可能な限り授業時間内で学生の理解を得たいと考えている。そのため、学生にもメリハリをつける習慣を身につけて欲しい。

【成果・評価】

・授業評価アンケートでは各授業科目とも概ね良い評価であった。
・いずれの授業科目とも、最終的には概ねよい成績評価となった。
・授業および自作した講義資料が実務実習などの臨床の現場で役に立ったとの意見がある。
・卒業研究生から卒業後も研究活動を継続していきたいとの発言があった。

【目標】
短期目標
授業の中で学生同士のディスカッションの機会を設定し、学生自身の知識をまとめてもらうことでさらに学びを深める。また、その理解度を確認しながら授業などを進めていく（2 年以内）。

長期目標

現場で活躍できる実践的な能力を持った薬剤師を育成するための教育を行う。